

令和5年度横須賀市地方公営企業

決 算 審 査 意 見

第1 審査の種類

決算審査（地方公営企業法第30条第2項の規定に基づく審査）

第2 審査実施の期間

令和6年6月1日から同年8月8日まで

第3 審査の対象

令和5年度横須賀市水道事業会計決算

令和5年度横須賀市公共下水道事業会計決算

令和5年度横須賀市病院事業会計決算

上記各会計決算に関する事業報告書、キャッシュ・フロー計算書、収益費用明細書、固定資産明細書及び企業債明細書

第4 審査の主な着眼点

審査に付された各会計の決算その他関係書類が関係法令に準拠して作成されており、その計数が正確であり、事業の経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているか。また、予算執行が適正に行われたか。

各公営企業が事業の経済性を発揮し、公共の福祉を増進するように運営されたか。

第5 審査の実施内容

横須賀市監査基準に準拠し、総勘定元帳その他の会計帳票及び関係証書類との照合その他必要と認めた審査手続を実施した。

なお、各公営企業が事業の経済性を発揮し、公共の福祉を増進するように運営されたかの検討に当たっては、事業の経営分析を行った。

第6 審査の結果

審査に付された各会計の決算その他関係書類は関係法令に準拠して作成されており、その計数は正確であり、事業の経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認められた。また、予算執行は適正に行われていると認められた。

事業の運営面についてみると、各公営企業ともに企業の経済性を発揮し、本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されていると認められた。

主要な経営指標等の推移

第1 水道事業

水道事業の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
経 営 成 績	営業収益	9,131,786	9,030,767	8,912,515	9,005,274	9,097,495
	営業利益又は 営業損失(△)	354,277	585,427	538,435	△5,883	21,582
	経常利益	1,153,915	1,378,812	1,267,336	862,675	904,955
	当年度純利益	1,142,246	1,349,393	1,258,118	809,328	905,933
	繰入金を除いた 当年度純利益	1,133,214	1,339,937	1,248,468	799,058	896,399
財 政 状 態	資産合計	98,884,941	99,442,647	100,978,877	100,853,427	102,499,956
	資本金	54,829,502	56,829,502	57,730,555	58,442,389	59,175,221
	資本合計	61,510,920	62,860,313	64,118,695	64,928,023	65,833,957
	自己資本構成比率	78.4%	78.8%	78.5%	78.8%	78.0%
	1年超滞納未収金	10,048	11,034	12,365	13,320	14,150
	不納欠損額	3,249	2,075	790	1,034	2,726
	企業債年度末残高	18,482,550	18,034,649	18,524,866	18,511,503	19,054,726
	企業債利息	197,419	153,617	119,716	94,213	82,217
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	3,813,362	4,169,383	3,844,871	3,984,662	4,002,720
	投資活動による キャッシュ・フロー	△6,638,508	△4,585,959	△5,183,415	△3,789,139	△3,732,595
	財務活動による キャッシュ・フロー	△507,574	△447,900	490,217	△13,363	543,222
	資金期末残高	6,420,352	5,555,875	4,707,549	4,889,709	5,703,056
そ の 他	建設改良費	4,943,220	4,871,623	6,268,612	4,919,796	4,705,289
	一般会計繰入金	28,032	13,224	9,650	13,471	9,534
	職員数	177人	174人	170人	168人	165人

- (注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

営業収益は、給水収益の増などにより、前年度に比べて9,222万円（1.0%）増加し、90億9,749万円となった。

営業利益は、営業収益の増加が、浄水費及び総係費の増などによる営業費用の増加を上回ったため、前年度の営業損失から、2,158万円の営業利益に転じた。

経常利益は、営業利益の増加に加え、営業外収益が増加し、営業外費用が減少したため、前年度に比べて4,227万円（4.9%）増加し、9億495万円となった。

当年度純利益は、特別損失の減少などにより前年度に比べて9,660万円（11.9%）増加し、9億593万円となった。

繰入金を除いた当年度純利益は、前年度に比べて9,734万（12.2%）増加し、8億9,639万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、主に構築物の有形固定資産の増による固定資産の増加により、前年度に比べて16億4,652万円（1.6%）増加し、1,024億9,995万円となった。

資本合計は、主に資本金が組入資本金の組み入れによって増加したことにより、前年度に比べて9億593万円（1.4%）増加し、658億3,395万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて82万円（6.2%）増加し、1,415万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の借入額が償還額を上回り、前年度に比べて5億4,322万円（2.9%）増加し、190億5,472万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、当年度純利益と減価償却費を主因として業務活動により40億272万円増加し、有形固定資産の取得等による投資活動により37億3,259万円減少し、企業債借入等の財務活動により5億4,322万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は前年度に比べて8億1,334万円（16.6%）増加し、57億305万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に経年化した配水管の耐震性能を備えた管への更新工事などの配水施設整備事業費の減少により、前年度に比べて2億1,450万円（4.4%）減少し、47億528万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて393万円（29.2%）減少し、953万円となった。

職員数は、前年度に比べて3人減少し、165人となった。

第2 公共下水道事業

公共下水道事業の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
経 営 成 績	営業収益	9,124,877	8,978,076	8,877,462	8,664,815	8,956,540
	営業利益又は 営業損失(△)	△3,883,076	△3,723,911	△4,130,107	△4,804,942	△4,734,351
	経常利益	903,219	1,016,566	693,129	247,167	359,688
	当年度純利益	940,781	979,009	648,673	280,450	372,884
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失(△)	△1,547,259	△1,276,527	△1,584,151	△1,748,149	△1,484,936
財 政 状 態	資産合計	238,377,787	236,141,607	229,324,707	225,841,676	222,510,100
	資本金	16,730,048	17,550,078	18,490,859	19,469,869	20,118,543
	資本合計	39,873,982	40,854,385	41,503,073	41,784,314	42,157,725
	自己資本構成比率	65.5%	65.9%	67.0%	67.5%	67.8%
	1年超滞納未収金	19,888	14,475	13,071	13,029	14,959
	不納欠損額	3,103	3,856	2,662	2,397	2,938
	企業債年度末残高	79,117,622	77,611,193	73,706,701	71,256,959	68,272,914
	企業債利息	994,246	812,474	664,063	527,962	437,968
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	4,043,804	4,108,471	4,195,189	3,112,885	4,078,323
	投資活動による キャッシュ・フロー	△2,890,329	△3,547,885	△3,415,361	△2,503,995	△1,622,748
	財務活動による キャッシュ・フロー	△1,943,279	△313,847	△2,620,649	△1,084,070	△1,560,440
	資金期末残高	3,177,414	3,424,152	1,583,331	1,108,150	2,003,285
そ の 他	建設改良費	5,039,538	6,607,396	3,246,100	6,190,116	4,767,159
	一般会計繰入金	3,728,458	3,620,104	3,701,500	3,569,194	3,604,861
	職員数	127人	131人	130人	128人	127人

- (注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

営業収益は、下水道使用料の増などにより、前年度に比べて2億9,172万円(3.4%)増加し、89億5,654万円となった。

営業損失は、営業収益の増加が、処理場費の増などによる営業費用の増加を上回ったため、前年度に比べて7,059万円(1.5%)減少し、47億3,435万円となった。

経常利益は、支払利息及び企業債取扱諸費などの営業外費用が大きく減少したため、前年度に比べて1億1,252万円(45.5%)増加し、3億5,968万円となった。

当年度純利益は、特別利益の増加が、特別損失の増加を下回ったものの、経常利益が増加したため、前年度に比べて9,243万円(33.0%)増加し、3億7,288万円となった。

繰入金を除いた当年度純損失は、前年度に比べて2億6,321万円(15.1%)減少し、14億8,493万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、主に構築物等の減価償却等に伴う固定資産の減少により、前年度に比べて33億3,157万円(1.5%)減少し、2,225億1,010万円となった。

資本合計は、主に資本金が組入資本金の組み入れによって増加したことにより、前年度に比べて3億7,341万円(0.9%)増加し、421億5,772万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて192万円(14.8%)増加し、1,495万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回り、前年度に比べて29億8,404万円(4.2%)減少し、682億7,291万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、当年度純利益と減価償却費を主因として業務活動により40億7,832万円増加し、有形固定資産の取得等による投資活動により16億2,274万円減少し、企業債償還等の財務活動により15億6,044万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は前年度に比べて8億9,513万円(80.8%)増加し、20億328万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に上町ポンプ場監視制御設備更新ほか工事などのポンプ場建設事業に充てられているが、終末処理場建設事業費の一部を翌年度に繰り越したことなどにより前年度に比べて14億2,295万円(23.0%)減少し、47億6,715万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて3,566万円(1.0%)増加し、36億486万円となった。

職員数は、前年度に比べて1人減少し、127人となった。

第3 病院事業

病院事業の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
経 営 成 績	医業収益	694,438	434,714	683,495	684,558	697,240
	医業利益又は 医業損失(△)	△661,132	△4,527,391	△5,742,454	△3,375,967	△817,323
	経常利益又は 経常損失(△)	△123,977	△294,909	125,584	110,506	67,148
	当年度純利益又は 当年度純損失(△)	△131,260	△302,192	115,099	110,506	21,118
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失(△)	△1,143,260	△925,192	△885,900	△888,493	△977,881
財 政 状 態	資産合計	15,894,609	18,086,027	18,362,779	17,493,379	21,978,368
	資本金	12,660,956	12,765,956	12,765,956	12,765,956	12,989,956
	資本合計	10,557,226	10,360,034	10,475,133	10,585,639	10,830,758
	自己資本構成比率	70.6%	61.5%	61.1%	64.4%	52.1%
	1年超滞納未収金	5,461	4,595	4,336	3,177	3,070
	不納欠損額	96	459	86	1,018	2
	企業債年度末残高	4,448,538	4,087,913	3,740,189	4,528,695	10,312,547
	企業債利息	37,250	34,596	31,696	29,650	40,626
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	763,704	676,275	1,715,205	29,915	387,372
	投資活動による キャッシュ・フロー	△591,884	△656,774	△584,476	△1,206,467	△5,724,079
	財務活動による キャッシュ・フロー	6,080	△246,185	△347,724	788,506	6,007,167
	資金期末残高	3,735,914	3,509,229	4,292,234	3,904,188	4,574,649
そ の 他	建設改良費	711,664	821,073	524,272	1,358,079	6,290,412
	一般会計繰入金	1,286,000	728,000	1,001,000	999,000	1,223,000
	職員数	8人	13人	13人	13人	13人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純利益又は当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本
5 職員数は市職員数であり、指定管理者の職員は含まれていない。

【当年度の概要】

(1) 経営成績

市民病院及びうわまち病院（以下「両病院」という。）は、公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者とする指定管理者制度（利用料金制）を導入している。

医業収益は、市民病院では減少し、うわまち病院では増加した。事業合計では前年度に比べて1,268万円（1.9%）増加し、6億9,724万円となった。

医業損失は、両病院とも減少した。事業合計では前年度に比べて25億5,864万円（75.8%）減少し、8億1,732万円となった。

経常利益は、市民病院が経常損失446万円を計上し、うわまち病院が経常利益7,161万円を計上した。事業合計では前年度に比べて4,335万円（39.2%）減少し、6,714万円となった。

当年度純利益は、市民病院が当年度純損失5,049万円を計上し、うわまち病院が当年度純利益7,161万円を計上した。事業合計では前年度に比べて8,938万円（80.9%）減少し、2,111万円となった。

繰入金を除いた当年度純損失は、前年度に比べて8,938万円（10.1%）増加し、9億7,788万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、市民病院では減少し、うわまち病院では増加した。事業合計では前年度に比べて44億8,498万円（25.6%）増加し、219億7,836万円となった。

資本合計は、両病院とも増加した。事業合計では前年度に比べて2億4,511万円（2.3%）増加し、108億3,075万円となった。

1年超滞納未収金は、両病院とも減少した。事業合計では前年度に比べて10万円（3.3%）減少し、307万円となった。

企業債年度末残高は、両病院とも増加した。事業合計では前年度に比べて57億8,385万円（127.7%）増加し、103億1,254万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、業務活動により3億8,737万円増加し、投資活動により57億2,407万円減少し、財務活動により60億716万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて6億7,046万円（17.2%）増加し、45億7,464万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主にうわまち病院の移転建替えとなる新市立病院建設事業費が増加したことにより、前年度に比べて49億3,233万円（363.2%）増加し、62億9,041万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて2億2,400万円（22.4%）増加し、12億2,300万円となった。

職員数は、前年度と同数の13人であった。

1 市民病院

市民病院の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
経 営 成 績	医業収益	420,482	417,091	413,409	415,352	405,709
	医業利益又は 医業損失(△)	△398,617	△2,197,158	△2,790,013	△1,960,214	△375,753
	経常利益又は 経常損失(△)	△159,201	△321,185	64,068	46,103	△4,467
	当年度純利益又は 当年度純損失(△)	△166,485	△328,468	60,022	46,103	△50,497
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失(△)	△796,485	△951,468	△559,977	△571,896	△644,497
財 政 状 態	資産合計	6,562,302	7,317,456	7,182,368	6,688,632	6,213,664
	資本金	9,970,356	9,970,356	9,970,356	9,970,356	10,089,356
	資本合計	4,595,634	4,267,165	4,327,188	4,373,292	4,441,794
	自己資本構成比率	72.1%	60.7%	62.8%	67.9%	73.7%
	1年超滞納未収金	4,304	3,483	3,336	3,052	2,967
	不納欠損額	46	409	5	163	0
	企業債年度末残高	1,692,681	1,533,122	1,355,015	1,306,808	1,541,769
	企業債利息	19,920	18,273	16,564	15,193	14,689
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	420,617	415,668	361,154	543,510	475,973
	投資活動による キャッシュ・フロー	△237,080	△292,372	△279,652	△221,352	△426,336
	財務活動による キャッシュ・フロー	102,010	△150,120	△178,106	△48,207	353,276
	資金期末残高	885,546	858,722	762,118	1,036,069	1,438,983
そ の 他	建設改良費	359,843	321,159	269,912	242,864	468,903
	一般会計繰入金	800,000	623,000	620,000	618,000	713,000
	職員数	3人	3人	3人	3人	3人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純利益又は当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

医業収益は、主に他会計負担金の減により、前年度に比べて964万円（2.3%）減少し、4億570万円となった。

医業損失は、医業費用が新型コロナウイルス感染症関係補助金の指定管理者への支出の減などにより減少したため、前年度に比べて15億8,446万円（80.8%）減少し、3億7,575万円となった。

経常損失は、医業損失に医業外収益及び医業外費用を加減した結果、前年度の経常利益から、446万円の経常損失に転じた。

当年度純損失は、経常損失に特別利益及び特別損失を加減した結果、前年度の純利益から、5,049万円の純損失に転じた。

繰入金を除いた当年度純損失は、前年度に比べて7,260万円（12.7%）増加し、6億4,449万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、建物などの減価償却等に伴い固定資産が減少し、未収金の減などから流動資産が減少したことにより、前年度に比べて4億7,496万円（7.1%）減少し、62億1,366万円となった。

資本合計は、当年度純損失により欠損金が増加したものの、繰入資本金が一般会計からの出資金により増加したため、前年度に比べて6,850万円（1.6%）増加し、44億4,179万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて8万円（2.8%）減少し、296万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の借入額が償還額を上回り、前年度に比べて2億3,496万円（18.0%）増加し、15億4,176万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、業務活動により4億7,597万円増加し、有形固定資産の取得による支出の投資活動により4億2,633万円減少し、企業債の収入等の財務活動により3億5,327万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて4億291万円（38.9%）増加し、14億3,898万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に市民病院非常用発電機改修工事などに伴う建物改修費が増加したことにより、前年度に比べて2億2,603万円（93.1%）増加し、4億6,890万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて9,500万円（15.4%）増加し、7億1,300万円となった。

職員数は、前年度と同数の3人であった。

2 うわまち病院

うわまち病院の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
経 営 成 績	医業収益	273,956	17,623	270,086	269,206	291,531
	医業利益又は 医業損失 (△)	△262,514	△2,330,232	△2,952,441	△1,415,753	△441,569
	経常利益	35,224	26,275	61,515	64,402	71,616
	当年度純利益	35,224	26,275	55,077	64,402	71,616
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失 (△)	△346,775	26,275	△325,922	△316,597	△333,383
財 政 状 態	資産合計	9,332,307	10,768,570	11,180,411	10,804,746	15,764,703
	資本金	2,690,600	2,795,600	2,795,600	2,795,600	2,900,600
	資本合計	5,961,592	6,092,868	6,147,945	6,212,347	6,388,963
	自己資本構成比率	69.6%	62.1%	59.9%	62.3%	43.6%
	1 年超滞納未収金	1,156	1,112	999	124	103
	不納欠損額	49	50	81	854	2
	企業債年度末残高	2,755,856	2,554,791	2,385,173	3,221,886	8,770,777
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	企業債利息	17,330	16,322	15,132	14,456	25,937
	業務活動による キャッシュ・フロー	343,087	260,606	1,354,050	△513,594	△88,601
	投資活動による キャッシュ・フロー	△354,803	△364,402	△304,823	△985,115	△5,297,743
	財務活動による キャッシュ・フロー	△95,929	△96,065	△169,617	836,713	5,653,890
そ の 他	資金期末残高	2,850,368	2,650,506	3,530,116	2,868,119	3,135,665
	建設改良費	351,821	499,914	254,360	1,115,214	5,821,508
	一般会計繰入金	486,000	105,000	381,000	381,000	510,000
	職員数	5人	10人	10人	10人	10人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益又は当年度純損失は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本
5 元年度の職員数のうち2人は、うわまち病院専従の資本勘定職員である。
6 2年度、3年度、4年度及び5年度の職員数のうち7人は、うわまち病院専従の資本勘定職員である。

【当年度の概要】

(1) 経営成績

医業収益は、主に他会計負担金の増により、前年度に比べて2,232万円（8.3%）増加し、2億9,153万円となった。

医業損失は、医業費用が新型コロナウイルス感染症関係補助金の指定管理者への支出の減などにより減少したため、前年度に比べて9億7,418万円（68.8%）減少し、4億4,156万円となった。

経常利益は、医業損失に医業外収益及び医業外費用を加減した結果、前年度に比べて721万円（11.2%）増加し、7,161万円となった。

当年度純利益は、平成18年度から続いており、前年度に比べて721万円（11.2%）増加し、経常利益と同額の7,161万円となった。

繰入金を除いた当年度純損失は、前年度に比べて1,678万（5.3%）増加し、3億3,338万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、未収金の減などにより流動資産が減少したものの、建設仮勘定の増などにより固定資産が増加したため、前年度に比べて49億5,995万円（45.9%）増加し、157億6,470万円となった。

資本合計は、繰入資本金が一般会計からの出資金により増加したことなどから、前年度に比べて1億7,661万円（2.8%）増加し、63億8,896万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて2万円（16.7%）減少し、10万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の借入額が償還額を上回り、前年度に比べて55億4,889万円（172.2%）増加し、87億7,077万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、業務活動により8,860万円減少し、有形固定資産の取得による支出の投資活動により52億9,774万円減少し、企業債の収入等の財務活動により56億5,389万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて2億6,754万円（9.3%）増加し、31億3,566万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主にうわまち病院の移転建替えとなる新市立病院建設事業費が増加したことにより、前年度に比べて47億629万円（422.0%）増加し、58億2,150万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて1億2,900万円（33.9%）増加し、5億1,000万円となった。

職員数は、前年度と同数の10人であった。

